

怒号のなか採決

反対派 「街を壊さないで」

「強行採決だ」「街を壊さないで」。東京・

下北沢地区の地区計画が決定された世田谷区都市計画審議会（東郷尚武会長）は十八日、傍聴に訪れた反対住民らの怒号が包むなか、採決が行われる異様な事態となった。反対派は事業阻止に向け、さらに運動を活発化させる構えを見せた。

（●面参照）

採決の瞬間、大声を上げて傍聴席から立ち上がり、職員に制止されていた「Save the 下北沢」代表の下平憲治

さん（画）は「論理が成り立っていない側が、数で抑え込んだ」と憤った。同会では一万八千人の反対署名を集めて対案を作成。行政と専門家、市民による「ラウンドテーブル」の設置も呼びかけて

いた。「本当の意味で（街づくりは）中心になつている声は、け飛ばされた」と声を荒らげた。

また、生まれた時から下北沢で暮らしていると、いう金子賢三さん（画）は「計画は下北沢の魅力を根底から破壊する。町歩きを楽しめるのがよさなのに、ロータリーをつくって車を入れてしまう、高層再開発が行われることで街の形態が大きく変わる」と落胆していた。

その上で「来春の区長選で、候補者を立てたい。工事が始まる前に、市民が街づくりにまっとうな意見を言えるような、世田谷区にしたい」と、現区政と全面対決する考えを示した。